令和6年度学校評価結果報告書

桶川市立桶川中学校
校長 三杉 紀文

1 目指す学校像 明るく元気、地域の誇り桶川中学校

- ①保護者・地域と連携する開かれた学校
- ②生き生きと笑顔あふれる学校
- ③きれいで安心安全な学校

2 評価結果

評価基準 A：ほぼ達成した（8割以上の達成状況） B：概ね達成した（6割以上8割未満の達成状況）
C：あまり達成していない（3割以上6割未満の達成状況） D：ほとんど達成していない（3割未満の達成状況）

領域	No.	評価項目	本校職員の自己評価		学校運営協議会における評価
			評価	説明及び学校の考え、課題等	
組織・運営	1	校務分掌の各主任を中心に、分掌内で課題を共有し、前年度の反省を生かした計画を立てて実践する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○分掌主任を中心に適宜話し合いの場を持ち、滞りなく行うことができた。 ○教育課程等を見直し、完全下校の見直しなど働き方改革をもっと進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革には予算措置が必要であり学校運営協議会として要望等を出す方法もある。 ・チームワーク良く学校運営にあたっていただきたいと考える。
	2	学年や分掌ごとの主任がリードし、担当ごとに連携を取り、組織的に校務を進めた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○主任が中心となって、報告・連絡・相談・調整を細かく行うことで、円滑かつ組織的に運営を行っていた。 	
	3	職員相互の尊敬・信頼・協力を高め、働き甲斐と張りのある明るい職場をつくる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○職員相互の尊敬・信頼・協力は保たれており、職務は円滑に進められている。 ○引き続き「教職員実践目標」、「明るい職場づくりの10ポイント」を意識して、働きやすい職場づくりを作っていく。 	
学習指導	4	各教科等の指導で、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、「できる」「わかる」喜びを味わえる授業を実践する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が「わかった」と実感できるよう、身近なものを取り上げるなどさまざまな工夫がされていた。 ○各教科等において、chromebook や大型テレビなど ICT 機器等を有効的に活用し、「できる」「わかる」を意識した授業を実践することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかった」生徒がわからない生徒に教えるという流れも作れると良いかと思う。 ・生徒の問いや興味に対応いただけると良い。 ・ICT 機器を道具として有効に活用していると思う。 ・「個別最適な学び」「協働的な学び」をさらに研究し、生徒たちの学力向上を図っていただきたい。
	5	各教科等の指導において、適切に話し合いをコーディネートし、対話的な学びの充実を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科の実態に応じた学習形態の工夫により、適切に話し合い活動をコーディネートし、対話的な学びの充実を図ることができた。 ○教科会や研修会等で実践を共有し、さらなる充実を図る 	
	6	各教科等の指導において、生徒の「問い」や「思い・願い」に基づいた学習課題の設定や解決の見通	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の「問い」や「思い・願い」に基づいた学習課題の設定や解決の見通しの明確化により、主体的な学習を推進するという意識で授業に取り組んだ。 ○一方で、教師主導の授業展開が行われること 	

		しの明確化により、主体的な学習を推進する。		も少なくなかった。 ○学校課題研究を充実させていくことで、主体的な学習を推進していく。	
生徒指導・教育相談	7	ほめることを中心とした生徒のよさを伸ばす積極的な生徒指導を実践する。	A	○ほめることを中心とした生徒のよさを伸ばす積極的な生徒指導の実践を、意識的に推進することができていた。 ○必要な情報はスピード感を持って共有し、指導に生かしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ撲滅宣言」「オレンジリボン運動」は、よい取組である。生徒の主体的な活動ができています。 ・加減が難しいがほめるだけでなく、その後に問題点や改善点も提示頂けるとより良いと思う。 ・引き続きアンテナを高くして対応をお願いしたい。 ・問題行動の対処で重要なことは、初期対応である。事実確認を正確に行って積極的に対応して欲しい。
	8	生徒が積極的にかかわるいじめ防止の取組を推進し、差別やいじめを絶対に許さないという信条と態度を育てる。	A	○生徒会を中心に「いじめ撲滅宣言」「オレンジリボン運動」を行い、意識向上を図る。 ○生徒が積極的にかかわるいじめ防止の取組みを増やしていくことが必要である。	
	9	いじめを認知した場合は事態を迅速に把握・対応し、解消とその後の見届けをする。	A	○学校生活アンケートから、記入があれば該当生徒に聞いて迅速に把握・対応した。また、その情報を教師間で共有し取り組んでいた。	
健康教育	10	健康教育の指導の充実を図るため、年間指導計画（学校保健・食に関する指導）に基づいた指導を行う。	A	○定期的に保健だよりや給食だよりを発行し、啓発できている。 ○養護教諭や委員会生徒が中心となり、健康教育に関する取組が非常に充実している。	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会が健康教育に意欲的に取り組んでいる。 ・防犯ブザーの推奨について家庭への呼びかけをしたほうがよいのではないかと。 ・「危機管理マニュアル」は、毎年の見直し、追加・修正が必要である。 ・安心安全な学校づくりのため毎年度危機管理マニュアルの見直しを実施するとよい。 ・安全対応に継続して取り組んでいただき、ありがたい。 ・引き続き不審者対応を行い、危機管理の内容を周知徹底して下さい。
	11	施設・設備の安全点検を常時実施し、事故を未然に防止するよう努める。	A	○安全担当中心に点検を行い、施設・設備への事故未然防止ができていた。 ○今後も引き続き定期的な安全点検や、確認を行う。	
	12	危機管理マニュアル及び防災マニュアルの改善を図り、安全な体制づくりを行う。	A	○「不審者対応」の避難訓練など、今取り組むべき実践ができた。 ○危機管理マニュアルが場所・内容が周知されていた。	
学習環境	13	機能的、美的な掲示教育を進め、校内に活気と潤いをもたせる。特に、学級経営の核である教室掲示を重視する。	A	○学校掲示板、学年掲示板、昇降口、通路等様々な場所に、各種ポスターや生徒作品が定期的に更新されていた。 ○教室の全面掲示は、必要最低限の掲示にとどめ、授業に集中できる環境を整えることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の前面掲示を最低限にとどめるなど、ユニバーサルデザインは重要である。 ・ポスターや生徒作品は訪問時の楽しみの一つですが、展示してあるホールが暗いのが残念である。 ・ICTの活用を教職員間で共有するとさらなるスキルアップにつながると
	14	各教科等の指導において、ICT 機器を活用した授業の充実を図る。	B	○当たり前のようにタブレットを使用する授業が以前より増えた。 ○活用方法を共有する機会を設定し、指導技術の充実を図っていく。	

	15	全生徒・職員で協力し、清掃等の活動を通して学校全体の美化を推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各清掃場所で、全生徒、全職員が意欲的に学校美化に取り組んでいた。細かなところにも目を向け、生徒とともに清掃に取り組んだ。 ○一方で清掃活動の意識が低い生徒も見られる。それぞれの清掃場所で週の重点項目を決め、それに取り組む等の取組をしていく。 ○日課によって清掃のない日が続くことがある。簡単清掃や朝清掃を設けられるとよいのではないか。 	考える。
教職員の資質向上	16	研修の機会や場を計画的に設定し、指導力の向上に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○研究主任を中心として、研修の機会や場を計画的に設定することができた。 ○それぞれが自己の課題を持ち、自己研修で指導力の向上に努めることも必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の資質・能力向上には研修は不可欠である。 ・学校関係以外の講習会もWebで受けられるので広げてみても良いと思う。
家庭・地域との連携	17	PTA及び学校応援団と調整しあい、連携を深め、計画的に活動する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○活動計画を予め把握し、調整しながら参加できるように努める。 ○学校応援団での環境整備により、生徒のよりよい活動につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校応援団の活動には先生方が常に参加しない方法も考えられる。 ・学校便りなどを地域で希望する方に、情報メールで発信する方法もある。 ・ホームページ等で最新の学校情報を掲示して欲しい。 ・学校便りの地域回覧がなくなったことで、桶中を知る機会は大幅に減っている。紙での地域配布がなくなったので、地域の方にも情報メールの登録の呼びかけなどおこなってはどうか。
	18	保護者・地域に積極的に情報発信し、より密な連携を実施する。	A	○情報メール、学校HP、学校だよりを通じて地域及び各家庭への情報発信を定期的に行うことができていた。	
特別活動	19	生徒の自主的な活動を尊重し、主体的な活動による学校改善を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒朝会、落ち葉はきなど生徒会や各委員会で生徒が中心となり活動した。 ○生徒に多くの部分を任せ、自主的な活動が実践できる様に支援したり、促したりした方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主的な活動との関連で、学校運営協議会に対する生徒からの要望をあげてもらうこともできる。 ・今後も生徒の自主的な活動をさらに活発にしていくための教師の積極的な働きかけをしてほしい。 ・生徒会の自主性をぜひ育てていただければと思う。
	20	学級会を充実させる等、生徒の自発的、自主的な活動を中心として、学級経営の充実を図る。	B	○各学年で担当が取り組みを提案し、生徒が自発的、自主的に学級活動を進めることができていた。	
総合的な学習	21	年間指導計画に沿って授業を実施し、生徒に自ら課題を見つけ主体的に問題を解決する能力を大きくむ。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間で取り組む内容を、扱うテーマを検討するなどして精査する。 ○各学年で総合的な学習の時間の取組について学年職員で共有し、計画的に実践することができていた。 	・教科横断的な学習の充実を図っていただきたい。

部 活 動 指 導	22	<p>コーチングスキルを向上させ、生徒の実態に応じた適切な指導を行う。</p>	B	<p>○学校規模に対して部活動数が多いため、部活動数の削減に向けて検討していく。 ○専門外の部活をみる顧問も多いが、コーチングスキル向上の活動を今後も継続し、生徒の実態に応じた適切な指導に繋げていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動を減らしていく際に、小学校への周知を広く行う必要がある。 ・部活動には生徒指導的な側面がある。あいさつ、集団行動、聞く姿勢等の指導も行っていたきたい。
-----------------------	----	---	---	--	--